



# この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2024年5月5日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

## 作られた悪役 リチャード3世は本当に暴君か

5日(日) = 1、3面

迫る



王子たちが幽閉されたロンドン塔

アル・パチーノが主演した映画や演劇などで知られる英国のリチャード3世(1452~85年)。これまで伝えられてきたイメージは残忍な暴君で、少年だったエドワード5世から王位を奪って幽閉し、その弟とともに殺害したとされています。しかし本当に殺害したのか明確な根拠はなく、最近では疑問を投げかける研究者も出ています。

この「リチャード3世暴君説」を決定づけたのは、文豪シェークスピアと、思想家トマス・モアの著作の影響が大

きようです。特にトマス・モアは「実行役はリチャード3世に指示された部下」と書き残しました。ただ、リチャード3世は司法改革に熱心で、貧しい人でも裁判を受けられる制度を作るなどの「善政」を施しており、エドワード5世らを殺害する動機も乏しいなど、反論もあります。

さてリチャード3世は、暴君？名君？そんな謎解きの旅が始まります。筆者は弊社の「ミステリーハンター」、ロンドン支局の篠田航一記者です。

## 米国 未成年のSNS規制の動き

5日(日) = 総合面

米国で未成年のSNS利用を規制する動きが広がっています。SNS依存に伴ううつ病などメンタルヘルスへの悪影響が指摘されているためです。これに対し、SNS業界は「『表現の自由』を保障した米憲法に反する」と反発。裁判所は業界の言い分を認める判断を示しており、SNSの利点を生かしつつ子どもの安全をどう守るか、難しい議論となっています。



## 特集ワイド 90歳 田原総一郎さんの「引き際」

7日(火) = 夕刊2面

4月に卒寿を迎えたジャーナリストの田原総一郎さん=写真。テレビ朝日系「朝まで生テレビ！」でおなじみの顔ですが、相手の発言をさえぎったり、傲慢にも映るその司会進行ぶりに批判が集まり、メディアの「辞めてほしい司会者」アンケートの常連にもなっています。

人間は引き際が肝心。もうお辞めになられては？ 記者の直言に、返ってきた言葉とは――。



### 論点 「子持ち様」批判の背景

8日(水) オピニオン面

幼い子どもを持つ親を「子持ち様」とやゆし、強く批判する声(SNS(ネット交流サービス)上で広がっています。子持ちであることを理由にした振る舞いが非常識だったり、周囲に迷惑だと受け止められたりするケースが多いのですが、これほどまで嫌悪される背景に何があるのでしょうか。

2人の専門家に聞きました。

竹橋の窓辺から

編集後記



毎日新聞が製作委員会に参加している映画「ディア・フアミリー」が来月14日に公開されます！余命10年を宣告された娘の命を救うためにIABPの開ルインカテーテルの開発に人生を捧げた男とその家族の姿を描いた奇跡の実話！主演は大泉洋さんです！詳細は毎日新聞が運営する映画サイト「ひとシネマ」で！

(堀之内浩嗣)

